

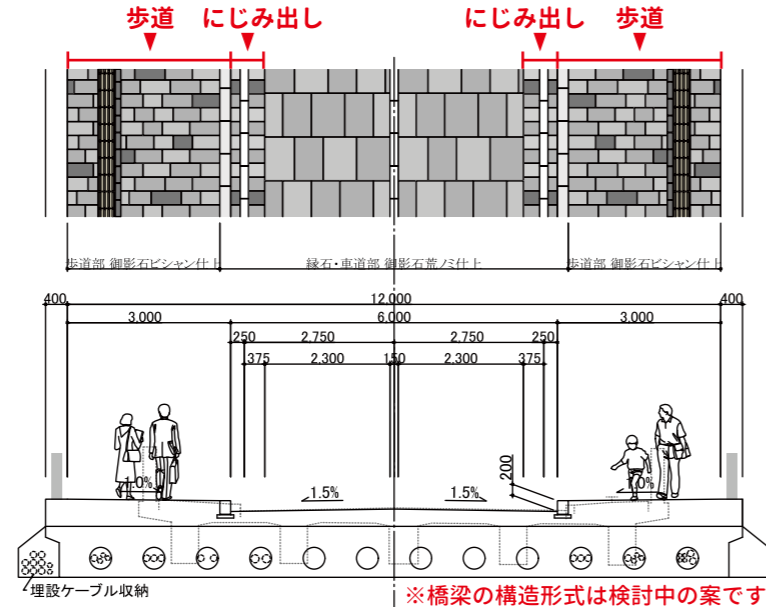
# 石畳の考え方と橋の構造

景観アドバイザー小野寺氏より説明

- 大鳥居北側の歩車共存（シェアド・スペース）から、宇迦橋の南詰まで石畳を伸ばすことで、橋の南詰までが聖なる空間であることを表現する
- 宇迦橋より南側では、歩道を土色のアスファルトとし、歩道の舗装を車道側ににじみ出させる「にじみ出し」を1工区から継続することで、神門通りの入口（宇迦橋）のための準備期間を表現する

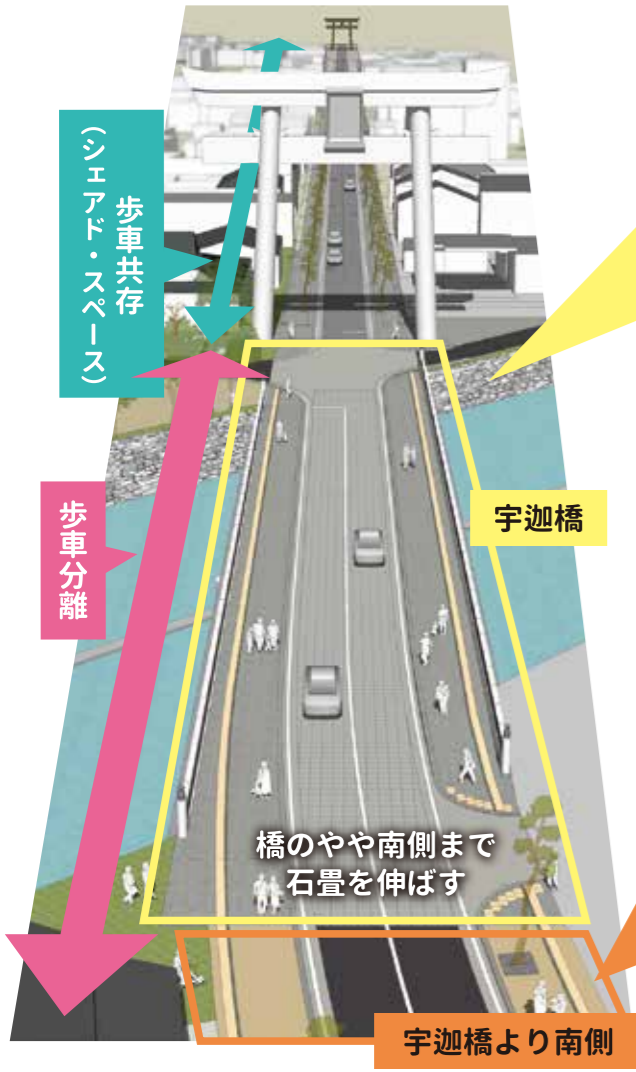
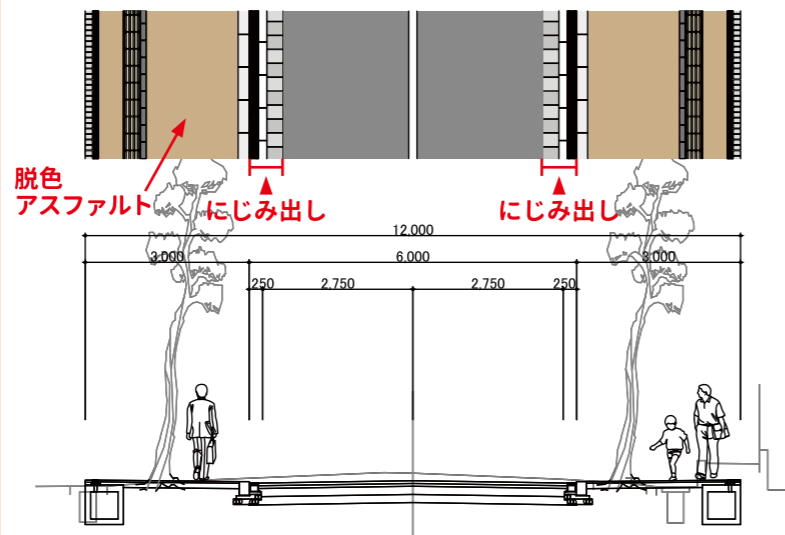
## 宇迦橋

- 1工区と同じ石畳舗装を検討
- 車道はグレー2種類の御影石で、歩道は小さいピースでグレー2種類と黒い御影石が散らばったような舗装
- 車のドライバーに注意を促すため、歩道の舗装パターンを車道側ににじみ出させる



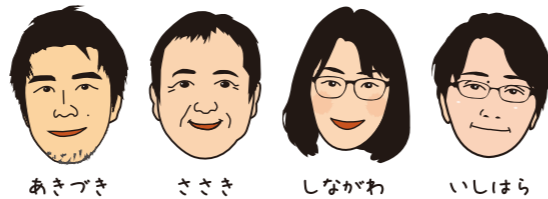
## 宇迦橋より南側

- 石畳舗装は宇迦橋までとし、宇迦橋より南側では「にじみ出し」だけを延長する（車道はアスファルト舗装）
- 歩道は、淡い土色で土を踏み固めたような風合いの脱色アスファルトを使用する



## 出雲県土整備事務所 都市整備課 からのメッセージ

今回のワークショップで提示された高欄デザイン案について、みなさんどのような印象を持たれましたか？それぞれに趣の異なるデザインとなっています。出雲大社へ向かう神域の起点部として、「わくわく感」を演出するのに相応しいデザインとは？いただいた意見も参考に検討し、次回ワークショップにて最終デザイン案を提示したいと思います。みなさんの真剣な議論がどんな形になるのか、私も楽しみです。（秋）



ニュースレター

# 4号

平成29年8月20日

# 神門通り線2工区ワークショップ

～ 祈りと出会いの道へ。出雲の国のかけ橋、新しい宇迦橋をわたる。～

## 第3回ワークショップ開催 宇迦橋の景観について考える② 具体的なデザイン案

平成29年7月27日（木）に第3回ワークショップを開催し、約70名の方にご参加いただきました。今回は、景観アドバイザーより具体的な高欄デザイン案が3案提示され、それぞれの高欄の良さや課題について、参加者間で議論が交わされました。

- |                              |              |             |               |
|------------------------------|--------------|-------------|---------------|
| 1                            | 2            | 3           | 4             |
| 第2回ワークショップの振り返りと大社中学校出前講座の報告 | 石畳の考え方と橋の構造  | 高欄デザイン案の考え方 | デザイン案について意見交換 |
| 出雲県土整備事務所・バイタルリード            | 景観アドバイザー小野寺氏 | 景観アドバイザー南雲氏 | 総合コーディネーター桑子氏 |



## 大社中学校 3年生 出前講座の開催

平成29年7月6日（木）に大社中学校3年生を対象に「どんな宇迦橋にしたいか考える」出前講座を開催しました。当日は、景観アドバイザーの小野寺氏、南雲氏も講師として参加しました。また、授業後にはお家の人と考える宿題として、保護者の方の意見も伺いました。

生徒からの意見	保護者からの意見
<p><b>■照明</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>●足元を照らす照明を付けてほしい。</li> <li>●照明の色は温かいオレンジ色が良い。</li> <li>●幻想的な感じにしてほしい。</li> </ul> <p><b>■高欄</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>●手すりの隙間を狭くしてほしい。</li> <li>●手すりは低い位置と高い位置にほしい。</li> <li>●高欄は萬代橋のように石（白）を使ってほしい。</li> </ul> <p><b>■デザイン</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>●シンプルに周りの風景に溶け込む橋が良い。</li> <li>●遠くから橋を見たときにかっこよくしてほしい。</li> <li>●歴史を感じる橋にしてほしい。</li> </ul>	<p><b>■照明</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>●落ち着いた趣のある照明で、夜に鳥居と橋が照らし出されると良い。</li> <li>●歴史や神秘性が感じられるような、雰囲気のある照明にしてほしい。</li> </ul> <p><b>■デザイン</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>●出雲大社・神門通り・鳥居の雰囲気とマッチしたものが良い。</li> <li>●出雲大社の門となる、神聖なイメージのデザインにしてほしい。</li> <li>●今までの大社町の歴史を感じさせながらも未来へ向かって歩むイメージ。</li> <li>●大鳥居と橋が一体感のあるようにしてほしい。</li> </ul> <p><b>■安全</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>●歩道が狭く車と接触しそうになるため、広くなると良い。</li> <li>●歩行者、自転車、自動車の区画をはっきりしてほしい。</li> <li>●道路に出る観光客が危ない。撮影場所があると良い。</li> </ul>





# 高欄デザイン案の考え方

景観アドバイザー南雲氏より説明

## 1. デザイン検討の前提条件

### 宇迦橋は未来に向かう橋

大社参拝への導入部としての存在や意味性、歴史性の表現と同時に、そこに住む人や観光客にとって優しく安全で、未来に繋ぐ橋である。

住む人にとって  
安全、安心で長い間親しまれる橋。  
来訪者にとって  
新鮮で、大社への始まり、誘い。

整備後のイメージ



桑子

神門通りの1工区のデザインでは「祈りの道、そして出会いの道」をコンセプトとし、今回は神門通りの入口である宇迦橋のため「祈りと出会いの道へ」というコンセプトにしている。勢溜に来て振り返った時に、宇迦橋を渡ったという実感も含めた神門通り全体のイメージを持っていただけるようにという思いでデザインを議論している。

参加者

勢溜から振り返って、神門通りが綺麗だねと喜んでくださる方が多い。橋は神門通りを振り返ったときに向こう側に見えるが、こうした全体的なことも考慮してデザインを考えているのか。

## 2. 高欄デザイン案

### 1 木の高欄

木橋であった初代宇迦橋の精神を受け継ぎ未来に繋ぐ

- 木は非常に優しく、温かい素材
- 痛みが早く、10~15年で交換しなければならない
- 転落防止のため、通常は15cm間隔の縦棧とする  
決まりがあるが、木高欄案では横棧となる
- 子どもや高齢者のための補助手すりの設置が難しい



初代宇迦橋

京都 渡月橋

参加者

出雲大社という雰囲気を求めて来られる観光客の方もいらっしゃるの、木の方が良いかなと思ったが、「鉄の高欄」も模型を見てすごく良いなと思った。

参加者

出雲大社にふさわしい木の橋が良いと思う。  
橋を中心としたイメージづくりやブランド化を考え、木か石が望ましいと思う。石よりも木の方が日本らしさを感じる。

木は非常に和風で良いが、木が朽ちてわびしくなった時のマイナスのイメージもある。出来上がって5年くらいまでは、本当に良いねという感じだが、こういった象徴的な空間で、朽ちていく木の特徴も含めて良いとできるかどうかである。

南雲

## 2 石の高欄 (御影石+鉄縦棧)

みかげいし ちゅうてつたてさん

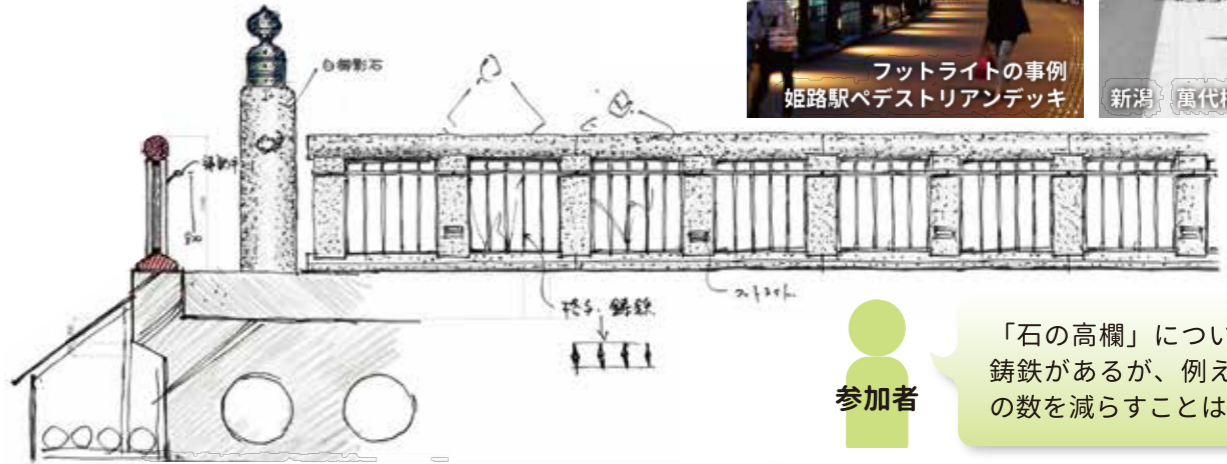
石で初代の木高欄を模倣するのではなく、「石らしい作り」に

- 石の柱と鉄の格子により、安全性が守られる
- 補助手すりの設置が可能
- 耐久性が高い ○柱に照明を仕込む演出が可能



フットライトの事例  
姫路駅ペDESTリアンデッキ

新潟 萬代橋 (国の重要文化財)



参加者

「石の高欄」についても支柱の間に鉄があるが、例えばこの石の支柱の数を減らすことはできないのか。

参加者

「石の高欄」は大鳥居と合うと思う。また、石は重厚感があり良いと思った。神門通りから石畳が続いているので、パッと見た時に石の雰囲気でも固めたら良いと直感的に思った。

石は手すりの部分の荷重が大きい。これを支えなければならないため、石の柱を減らすことは難しい。

南雲

### 3 鉄の高欄 (鉄縦棧)

ちゅうてつたてさん

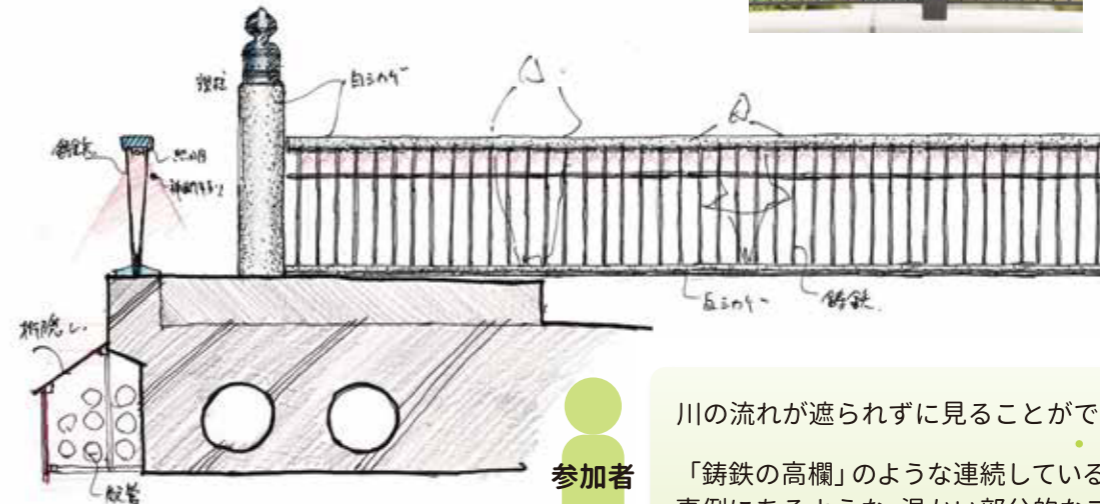
神門通りとの連続性や、大鳥居と調和した、よりシンプルなデザイン

- 手すりの下に照明をつけることで、大鳥居に向かって一直線の明かりが表現できる
- 照明を引き立たせるため、太い支柱をなくし、細い鉄の素材によって石の笠木(手すり)を支える
- 鉄の縦棧は、神門通りの照明にも似た松葉の形



松江市 米子橋

玉川上水岩崎橋 (連続高欄)



参加者

川の流れが遮られずに見ることができて良いと思った。

「鉄の高欄」のような連続しているライトよりも、「石の高欄」の事例にあるような、温かい部分的なフットライトが良いと思った。

すごく素敵だと思う。松のイメージで良いが、この石畳と合うのかなと率直に思った。また擬宝珠に重厚感があり、高欄がシンプルなためバランスがどうかと感じた。

鉄の錆の問題はどうか。堀川には海水が入り、周辺でも鉄材は錆びてすぐにボロボロになってしまう。鉄は鉄物ということは分かるが、耐久性はどの程度あるのか。

すごく良い感じだと思うが、今のコンクリート橋の白いイメージが強く、「鉄の高欄」では鉄の要素が大きいため大鳥居との調和がどうかと思った。

「鉄の高欄」の模型を見てすごくピッタリだなと思った。大鳥居と石の連続性もあるし、照明もとても素敵だなと感じた。